

令和3年度
夏油高原スキー場運営評価委員会
報告書

令和4年4月
夏油高原スキー場運営評価委員会

目 次

1	委員長あいさつ	1
2	評価について	2
3	評価結果について	4
	■ 1. 運営状況（計画性および効率性）	4
	■ 2. 財務状況（経営の持続可能性）	6
	■ 3. 夏油高原スキー場運営8年間の振り返り	7
	■ 4. 夏油高原スキー場の今後の展望と運営方針について	8
	■ 5. その他意見	9
	■ 6. 総括意見	9
	資料編	10
	北上市夏油高原スキー場運営評価委員会要綱	11
	北上市夏油高原スキー場運営評価委員会 委員名簿	12
	夏油高原スキー場 これまでの経緯	13

1 委員長あいさつ

夏油高原スキー場運営評価委員会

委員長 三 堀 裕 雄

令和3年度の北上市夏油高原スキー場運営評価結果の報告にあたり、代表してご挨拶を申し上げます。

北上市夏油高原スキー場運営評価委員会は、専門家による第三者的な視点から運営事業者の運営状況等について厳正かつ公正な評価を行うとともに、スキー場運営全般に対する意見を付する場として、平成26年に設置され、今年で9年目となります。

今年度は夏油高原スキー場において公設民営方式による運営の8シーズン目の財務及び運営状況について、評価を行うとともに、夏油高原スキー場運営の8年間を振り返りと、夏油高原スキー場の今後の展望と運営方針について議論を行いました。財務及び運営状況は、チェック項目に○、△、×による評価をしたうえで、総合的に（A）適切、（B）おおむね適切、（C）一部見直し、（D）要改善（抜本見直し）の評価を行いました。また、夏油高原スキー場運営の8年間の振り返りと、夏油高原スキー場の今後の展望と運営方針については、運営事業者及び市の意見を踏まえ、各委員から提言をいただきました。

評価の結果ですが、運営状況について、経営計画に対し新型コロナウイルスの影響により入込や売上は計画の水準には達していない状況ですが、実施内容については計画に沿って着実に実施されており、今まで培ってきたノウハウが成果につながっているとと言えます。また、市との良好な関係を構築できていることなどから、総合評価は概ね適切としました。

なお、財務状況については、新型コロナウイルス感染症による影響がある中、今シーズンの収支は若干の黒字決算となりましたが、実質的な債務超過の状態に変わりありません。しかしその中でも運営事業者の創意工夫と自助努力により債務超過を少しずつ解消しており、これまで8年間の経営努力の積み重ねを踏まえて、総合評価はおおむね適切としました。

スキー場運営の8年間の振り返りについては、8年間積み重ねてきたブランディング戦略やSNSの活用等の取り組みが成果に結びついており、高く評価しました。しかしながら、課題として、メンテナンス等に携わる技術系社員の人材育成と、社員の作業等に係る安全管理の見直しと徹底を図るよう提言しました。

夏油高原スキー場の今後の展望と運営方針については、世界的に温暖化が進む中で豊富な積雪を誇る夏油高原スキー場の価値は高まっており、さらに強固なものにしていくためにも、運営事業者の提案するリゾート化に向けて十分な検討をするよう提言しました。

最後に、運営事業者の営業努力と取り組みについては高く評価すると共に、今後の課題として施設老朽化への対応及びリゾート化に向けた検討について、市と連携し取り組んでいくことを総括意見としました。

以上、評価委員会の事業内容の評価の結果を御報告します。

2 評価について

評価については、「夏油高原スキー場運営事業者選定委員会」を開催した際の選定基準とした項目に基づき、重点項目となる「運営状況」、「財務状況」について評価を行いました。また、自由記述式として、「夏油高原スキー場運営8年間の振り返りについて」、「夏油高原スキー場の今後の展望と運営方針について」に関し、委員から提言をいただきました。

審査基準の置き方	視 点
■ 1. 運営状況 (計画性および効率性)	① 契約期間における経営計画を策定し、計画的に事業運営を行っているか。
	② 施設を適正に管理し、維持管理計画等を市と協議し実施しているか。
	③ 顧客ニーズを適切に把握し、必要に応じ運営に反映されているか。
	④ グリーンシーズンの活用策が具体的に実施されているか。
	⑤ 利用者増に向けた具体的かつ実現性のある取組が実施されているか。
	⑥ 想定外の事態に対して迅速かつ的確に対処できる組織体制となっているか。
■ 2. 財務状況 (経営の持続可能性)	① 債務超過になっていないか。
	② 運営に対する収支見通しが適正になされているか。
	③ 運営に対する創意工夫と自助努力がなされているか。
■ 3. 夏油高原スキー場運営8年間の振り返りについて	運営事業者が取り組んできた事業等に関することについて
■ 4. 夏油高原スキー場の今後の展望と運営方針について	夏油高原スキー場運営全般に係る意見や課題等について

【参考】運営事業者選定委員会 選定基準

No	公募要領のポイント	審査基準の置き方	視 点
1	次期運営事業者の義務 契約期間、スキー場の運営を誠実に 行う義務	契約期間、事業を誠実に計画、体 制、運営となっているか	総合性、経営基盤、将来性、実 績、企業理念
2	契約期間 5年以上10年以内での提案	継続性を有した計画となっているか 実現可能性が高い計画か	継続性、実現性、収益性、企画 力
3	運営に関する自立性 市は赤字補填を行わない	運営に対する収支見通しが適正か 運営に対する創意工夫と自助努力がな されているか	経営基盤、自立性(自助努 力)、収益性、業務遂行能力
4	適正な管理のもとで施設の改修・更新 に対応	適正な維持管理計画となっているか 真に必要な時期に必要な手立てを講じ ているか	実績、専門性、安全性、リスク マネジメント
5	運営に関する市への報告と協議 市への収支状況の報告&公開	収支報告や公開に協力しているか 市との協議を行う体制や計画となっ ているか	企業姿勢、公益性、
6	利用者増への取り組み	具体的かつ実現性のある取り組みが提 案されているか 自助努力のもとで取り組まれる内容か	企画力、創意工夫、専門性、独 自性
7	関係団体との連携	連携・協調を進める体制や計画となっ ているか グリーンシーズンの活用策が具体的に 示されているか	協調性、社会貢献、展開力、継 続性
8	市民や利用者への配慮した運営に努 めること	料金の見直しはどうか 市民や利用者への取り組みが具体的 かつ効果的か	企画力、独自性、事業実績、 利用者視点
9	地元の事業者や人材の活用	地元との連携を進める体制や計画とな っているか 採用等において地元人材の活用が配 慮されているか	企業姿勢、地域貢献、継続性

3 評価結果について

各項目に関する評価結果は以下の通りです。なお、評価にあたっては、市の内部評価や運営事業者による自己評価をもとに行いました。

[運営事業者の評価]

■ 1. 運営状況（計画性および効率性）

※チェックは○・△・×で記載

チェック項目	事業者	市担当	委員会
① 契約期間における経営計画に基づき、計画的かつ実績に基づいた事業運営を行っているか。	△	○	△
② 施設を適正に管理し、維持管理計画等を市と協議し実施しているか	○	○	○
③ 顧客ニーズを適切に把握し、必要に応じ運営に反映されているか。	○	○	○
④ グリーンシーズンの活用策が実施されているか。	○	○	○
⑤ 利用者増に向けた具体的かつ実現性のある取組が実施されているか。	○	○	○
⑥ 想定外の事態に対して迅速かつ的確に対処できる組織体制となっているか。	○	○	○

出資等運営事業者の自己評価

評価の理由	<input checked="" type="checkbox"/> A. 適切	<input type="checkbox"/> B. 概ね適切	<input type="checkbox"/> C. 一部見直し	<input type="checkbox"/> D. 要改善
	① 数値的に当初計画まではあと少しで届いていないが、コロナがなければ達成していたと思われる水準まで来ている。 ② 適時協議の上、対処してきている。 ③ ④ 最善を尽くして取り組んでいる。実績も伴ってきている。 ⑤ ブランド力向上に注力し、コロナ渦でも夏油を指名して来場されるユーザーを一定水準維持できている。 ⑥ 命令系統、連絡方法が確立され、様々な事象に速やかに対処できる体制づくりとなっている。			

市担当部課の点検評価

評価の理由	<input checked="" type="checkbox"/> A. 適切	<input type="checkbox"/> B. 概ね適切	<input type="checkbox"/> C. 一部見直し	<input type="checkbox"/> D. 要改善
	① 想定外の事象等により当初の計画通りとはいえないが、経営計画及び実績に基づいて事業運営が行われている。 ② 災害等、想定外の事態により被害が生じた場合、速やかに報告を受け、協議を行っている。また、維持管理計画については、優先度を勘案した整備計画を作成し、事前協議を行ったうえで対応している。			

- ③ 新型コロナウイルス感染症への安全対策、プロショップの要素や上級機種レンタルの導入等、顧客ニーズを把握して運営に反映させている。
- ④ キャンプ場やマウンテンバイクコース、近隣施設と連携したアクティビティ提供のほか、係留気球のアクティビティを取り入れるなど積極的な活用がなされており、新型コロナウイルス感染症の影響下でも安定した利用者を獲得している。
- ⑤ SNSを利用した効果的な広告やキャンプサイトの拡充等により、利用者増につながっている。また、ツリーランエリアの整備及びプロモーション、海外への情報発信等、アフターコロナに向けた取り組みが実施されている。
- ⑥ 緊急時指示命令システムを策定し、事故等が発生した際も迅速な対応を行っている。

運営評価委員会の評価

- | | | | |
|--------------------------------|---|-----------------------------------|---------------------------------|
| <input type="checkbox"/> A. 適切 | <input checked="" type="checkbox"/> B. 概ね適切 | <input type="checkbox"/> C. 一部見直し | <input type="checkbox"/> D. 要改善 |
|--------------------------------|---|-----------------------------------|---------------------------------|

運営評価委員の意見

- ・今までクロスプロジェクトグループ及び北日本リゾートが培ってきたノウハウを十分に活かして運営を行っている。
- ・市とも良好な関係を構築しており、報告・協議等も適切に行われている。

■ 2. 財務状況（経営の持続可能性）

※チェックは○・△・×で記載

チェック項目	事業者	市担当	委員会
① 債務超過になっていないか。	×	△	×
② 運営に対する収支見通しが適正になされているか。	△	△	△
③ 運営に対する創意工夫と自助努力がなされているか。	○	○	○

運営事業者の自己評価				
	<input type="checkbox"/> A. 適切	<input checked="" type="checkbox"/> B. 概ね適切	<input type="checkbox"/> C. 一部見直し	<input type="checkbox"/> D. 要改善
評価の理由	① 若干の債務超過である。年々縮小し、改善してきている。 ② コロナによる先行き不透明感があるが、影響を最小にとどめ、コロナ後を見据えた営業に取り組んでいる。 ③ 様々な取り組みに成果が出ており、東北管内のスキー場と比較しても健闘し、結果を出している。			

市担当部課の点検評価				
	<input type="checkbox"/> A. 適切	<input checked="" type="checkbox"/> B. 概ね適切	<input type="checkbox"/> C. 一部見直し	<input type="checkbox"/> D. 要改善
評価の理由	① 十分ではないが、自己資本はプラスに転じており、新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも財務状況は改善傾向にあり評価できる。 ② 新型コロナウイルス感染症の影響を受け、予測が難しい中で、計画的に運営がなされている。9年目の事業収支計画の売上等は、新型コロナウイルス感染症等の影響を見込んだ妥当な数値となっている。 ③ ターゲットを明確にしたプロモーション活動やツリーランエリア整備のほか、グリーンシーズンのキャンプ場営業等が成果に現れている。運営に対する創意工夫、自助努力により、一定のファンを獲得しており、営業利益の確保に繋げている。			

運営評価委員会の評価				
	<input type="checkbox"/> A. 適切	<input checked="" type="checkbox"/> B. 概ね適切	<input type="checkbox"/> C. 一部見直し	<input type="checkbox"/> D. 要改善
運営評価委員の意見	・帳簿上、自己資本は若干のプラスになっているが、費用の期間計算のズレなどにより、実質的には単年度赤字であり、債務超過の状況は未だ改善されていない。 ・収支計画については、コロナ禍においても、目標の売上高は実現可能な金額であると思われるが、設備の更新、保守管理・修繕費用等の負担が大きく、より一層の財務改善に向けて、市担当部課との継続的な協議が必要である。 ・コロナ禍で厳しい状況の中、今まで培ってきたノウハウを活かし努力している。その点は高く評価し、今後期待したい。			

■ 3. スキー場運営 8 年間の成果と反省点について

<p>運営事業者 の意見</p>	<p>低迷を続ける東北エリアの中では、長所を生かしたブランディング戦略が功を奏し、集客を伸ばしてきている。行くスキー場を選ぶユーザーの割合が増える中で、豪雪やツリーランのキーワードを武器に知名度を伸ばし、選ばれるスキー場となっている。</p> <p>スキーやスノーボードをする社員が増加し、本来の魅力を体感して営業に生かす動きが出てきている。知名度と相まって、遠方からのスタッフ希望も増え始めており、従業員若返りの兆しが見え始めている。</p> <p>一方、技術系社員の次の世代への人材育成が遅れている。</p> <p>近隣が値下げ戦略をしている中で、唯一値上げをして価値を提供する路線をとれている。リゾート化を目指す上で様々な点で粗や未熟な点が散見され、完成度を上げていく必要がある。</p> <p>業績は回復傾向だが、今後の修繕問題が山積しており、施設はまだまだ「持続可能」とは言えない状況である。</p>
<p>市担当部課 の意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全国的なスキー需要の減少や新型コロナウイルス感染症の影響がある中で、一定の顧客を維持できている。これまで積み重ねてきた夏油高原スキー場の長所を生かしたブランディング及びツリーランエリアの整備、上級レンタル用品の導入等のターゲットを明確にした効果的な運営のほか、新型コロナウイルス感染症への対策、キャンプ場をはじめとするグリーンシーズンの拡充等、社会情勢への対応及び顧客のニーズを的確にとらえた運営がなされており、今シーズンの不利な状況下においても、(株)北日本リゾートの営業努力によって顧客や売り上げの減少を踏みとどまらせている。 ・グリーンシーズンにおいては、昨シーズン開始したキャンプ場の運営を継続しており、直営のマウンテンバイクコースや係留気球、近隣施設と連携して提供しているSUP等、アクティビティも充実している。認知度も徐々に高まっており、今シーズンの安定した集客と利益の確保につなげている。今後もさらなるコンテンツの拡充や認知度向上によるグリーンシーズンの活性化に期待したい。 ・1月の高所除雪作業中に転落し社員が死亡する事故があった。再発防止のため、安全対策や社員間のチェック機能等、安全管理を見直し、徹底されたい。
<p>評価委員の 意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「豪雪」や「ツリーラン」などをキーワードとしたブランディング戦略及びSNSの活用等、8年間の積み重ねてきた取り組みが成果に結びついており、新型コロナウイルス感染症の影響による入込減少に歯止めをかけている。 ・グリーンシーズンも継続して活用されており、引き続き注力いただきたい。 ・メンテナンス等に携わる技術系の社員の人材育成に継続して力を入れていただきたい。また、社員の作業に係る事故再発防止及び安全管理を徹底していただきたい。

■ 4. 夏油高原スキー場の今後の展望と運営方針について

<p>運営事業者の意見</p>	<p>豊富な積雪が見込める夏油高原スキー場は国内だけでなく世界的な温暖化の中で貴重な存在といえる。また、魅力の本質である滑走環境も優れている。この点からも、施設は永続し、外部資本を取り入れリゾート化を果たし、地域経済へ更なる貢献をしていくことが理想と考えている。</p> <p>*現時点では次の契約の有無が不透明な為、投資活動やリゾート化に伴う活動は停滞している。</p> <p>次の契約の見込みが立ち次第、観光DMO組織を立ち上げる活動も再開継続する。</p> <p>アフターコロナを見据えて、海外へのプロモーションを再開強化していく。</p> <p>また、地元の子どものスキー離れに歯止めをかける施策で、地域のユーザーを増やしていく事も長期戦略として掲げる。</p> <p>グリーンシーズンにおいては、アウトドアアクティビティーなどの充実を図り、通年型のリゾートへ向けて進んでいきたい。</p>
<p>市担当部課の意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・(株)北日本リゾートによる夏油高原スキー場のブランディングやインバウンドへの取り組みは、着実に成果へと結びついている。引き続き事業計画に沿って運営されたい。 また、契約当初からの懸案事項でもあった、グリーンシーズンの活性化や地域との連携についても、近年成果が表れており、更なる充実を期待する。 ・現在、市は「夏油高原スキー場の将来構想の構築」を市の重要課題に位置付け、今後の運営の方向性等について検討を行っているところである。これまで夏油高原スキー場は、観光資源として、また地域の人々に親しまれる施設として重要な役割を担っており、当市にとって欠かすことのできない施設である。10年後、またその先の将来においてどのような姿を目指していくか、市としての考えを整理する。 ・約30年を経過する施設は老朽化が進んでおり、適切な維持管理が必要である。施設の維持管理計画について、当初に計画していなかった突発的なものや早急に処置を要するものなどが頻発しており、随時事業者と協議しながら計画を変更して対応している。今後さらに老朽化が進んでいく中で、適切に対処するため、今後整備を要する箇所について協議し、市として今後の維持管理に要する予算規模を試算している。
<p>評価委員の意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地球温暖化が進む中で、豊富な積雪がある夏油高原スキー場の価値は高まっている。さらに強固なものにしていくため、外部資本を導入しリゾート化を進めたいという北日本リゾートの提案については十分に検討されたい。 ・次期契約事業者として決定した場合には、DMO設立などリゾート化に向けた様々な戦略を練り、努力していただきたい。 ・子どもの利用を増やす為の施策、教育旅行の充実、グリーンシーズンの拡充について期待したい。 ・子会社の適正な運営管理を実施の上、営業力の強化を目指していただきたい。

■ 5. その他意見等

評価委員の意見	<ul style="list-style-type: none">・公設民営方式による運営が8年を経過しており、今後に向けて評価項目等の見直しが必要と考える。特に財務状況の評価においては、財務体質やより細かい点について確認し、判断することとしたい。・財務の見通しについては3ヵ年の計画を策定していただき、評価・見直しをする方法に変更した方がよいと考える。・ツリーランの急傾斜コースにおいて、積雪が多く気象条件の変化によってはツリーランに伴う雪崩の可能性もあるため、事故防止及び安全喚起を徹底していただきたい。
---------	---

■ 6. 総括意見

評価委員の意見	<ul style="list-style-type: none">・8年間取り組んできた積み重ねが成果として表れており、北日本リゾートの営業努力と取り組みについては高く評価する。・施設の老朽化は喫緊の課題として、市と連携して注力いただきたい。・リゾート化が可能かどうかの研究等、次の10年に向かう上でも課題として取り組んでいただきたい。
---------	---

資 料 編

北上市夏油高原スキー場運営評価委員会要綱

(設置)

第1 夏油高原スキー場の健全な運営を推進するため、夏油高原スキー場運営評価委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(所掌事項)

第2 委員会の所掌事項は、次のとおりとする。

- (1) 夏油高原スキー場の運営状況等の評価及び検証に関すること。
- (2) その他市長が必要と認める事項に関すること。

(組織)

第3 委員会は、委員5人以内をもって組織し、知識経験を有する者その他適当と認める者のうちから市長が委嘱又は任命する。

(任期)

第4 委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第5 委員会に委員長を置き、委員の互選とする。

- 2 委員長は、会務を総理し、会議の議長となる。
- 3 委員長に事故があるとき又は委員長が欠けたときは、あらかじめ委員長の指定する委員がその職務を代理する。

(会議)

第6 委員会の会議は、市長が招集する。

- 2 委員会は、委員の半数以上が出席しなければ会議を開くことができない。

(意見等の聴取)

第7 委員会は、必要があると認めるときは、関係者の出席を求め、意見、事情等を聴取するほか、資料の提出を求めることができる。

(庶務)

第8 委員会の庶務は、商工部商業観光課において処理する。

(補則)

第9 この告示に定めるもののほか必要な事項は、委員長が委員会に諮って定める。

北上市夏油高原スキー場運営評価委員会 委員名簿

(任期：令和3年2月1日から令和5年1月31日まで)

No.	役職	区 分	氏 名	所属・職名等
1	委員長	観光関係専門分野	三 堀 裕 雄	旅行ライター&エディター
2	委員	経営関係専門分野	堤 研 一	公認会計士
3	委員	スキー関係専門分野	三 浦 明 夫	盛岡市スキー協会
4	委員	利用者代表	高 橋 駿 介	北上スキーをこよなく愛する会

【夏油高原スキー場 これまでの経過】

- 平成5年12月 夏油高原スキー場オープン
- 平成14年11月11日 夏油高原スキー場施設の使用貸借に関する仮契約書締結
- 平成14年12月5日 財産の取得について議決（土地・建物・物品）
- 提案理由（議事録抜粋）
- 取得する財産は、夏油高原開発㈱のスキー場施設で10月臨時会において議決した国際興業㈱からの負担付寄付（310,0003,973円）により取得する。スキー場施設の看板・自動車・圧雪車・除雪車・工具器具備品等を除く、新夏油橋駐車場の土地（9筆）・スキーセンターほか12棟の建物・スキーコースのナイター設備等の構築物・自家発電機等の機械装備・リフト搬器等の車両運搬具を含めた一切のスキー場施設の寄付条件を履行するため取得する。
- ◎議決の結果
- 起立多数で原案のとおり可決。
- 平成14年12月5日 財産の無償貸付について議決（土地・建物・物品）
- 提案理由（議事録抜粋）
- 国際興業㈱の負担付寄付を履行し、夏油高原㈱に貸し付けようとするもの。夏油高原スキー場が継続利用されることで、雇用確保や地域振興等に資することから無償で貸付ける。貸付する財産は先に議決された全ての財産。所有権移転については売買に関する仮契約で12月中旬を目途に売買代金の支払い等の実行後に行う。使用貸借に関する仮契約では、売買契約が履行されることを条件として効力を生ずるとしていることから、所有権移転後に貸付実行となるもの。
- ◎議決の結果
- 起立多数で原案のとおり可決。
- 平成14年12月5日 夏油高原スキー場の運営に関する覚書締結（市・夏油高原開発㈱）
- 平成14年12月5日 森林空間総合利用整備事業の推進に関する協定書締結
(県・市・夏油高原開発㈱)
- 平成17年9月 夏油高原温泉開業
- 平成21年10月 夏油高原観光活性化策の調査研究報告書提出（三菱総合研究所より）
- 平成22年7月 夏油高原活性化タスクフォース設立
- 平成23年3月11日 東日本大震災・被害により営業休止
- 平成23年6月24日 夏油スキー場の国有林使用料を市が負担すること決定
- 平成23年8月20日 きたかみ夏油高原ヒルクライムを開催
- 平成23年10月1日 営業再開
- 平成23年12月12日 シーズン開始
- 平成23年 スキーの提供会を開催
- 平成24年 各種トレッキングを開催
- 平成25年3月4日 スキー場運営について報告
- 平成25年3月29日 加森観光株式会社及び夏油高原開発株式会社より夏油高原スキー場運営から撤退の申し出
- 平成25年5月31日 加森観光株式会社及び夏油高原開発株式会社 契約解除
- 平成25年5月31日 夏油高原スキー場施設における動産を市が取得

平成25年6月3日 運営事業者公募開始

平成25年6月17日 夏油高原スキー場雄事業者選定委員会の選定結果により、株式会社クロスプロジェクトグループを運営事業者として選定

平成25年7月1日 夏油高原スキー場施設の使用貸借契約に基づき、株式会社クロスプロジェクトグループが運営開始

平成25年8月1日 株式会社北日本リゾートが株式会社クロスプロジェクトグループの100%子会社としてスキー場の運営を開始

平成25年11月30日 夏油高原スキー場2013～2014シーズン プレオープン

平成25年12月6日 安全祈願祭

平成25年12月7日 夏油高原スキー場2013～2014シーズン オープン

平成26年5月11日 2013～2014シーズン 終了

平成26年7月26日 グリーンシーズン営業開始

平成26年8月20日 臨時議会にて圧雪車のリース契約について承認

平成26年11月10日 夏油高原スキー場運営評価委員会 開催

平成26年12月6日 夏油高原スキー場2014～2015シーズン オープン

平成27年8月1日 グリーンシーズン営業開始

平成27年12月5日 スキー場2015～2016シーズン オープン

平成28年1月28日 平成27年度夏油高原スキー場運営評価委員会

平成28年4月24日 スキー場 2015～2016 シーズン終了

平成28年6月27日 施設の大規模改修及び更新に関する包括協定を締結

平成28年7月16日 グリーンシーズン営業開始

平成28年12月3日 スキー場 2016～2017 シーズン オープン

平成28年12月20日 平成28年度第1回夏油高原スキー場運営評価委員会

平成29年2月22日 平成28年度第2回夏油高原スキー場運営評価委員会

平成29年5月7日 スキー場 2016～2017 シーズン終了

平成29年7月15日 グリーンシーズン営業開始

平成29年11月23日 スキー場 2017～2018 シーズン プレオープン

平成29年12月2日 スキー場 2017～2018 シーズン オープン

平成30年2月3日 第1ゴンドラ復旧、運行開始

平成30年2月21日 平成29年度夏油高原スキー場運営評価委員会

平成30年5月6日 2017-18 シーズン終了

平成30年7月15日 グリーンシーズン営業開始

平成30年12月9日 2018-19 ウィンターシーズン営業開始

平成31年3月4日 平成30年度夏油高原スキー場運営評価委員会

令和元年5月6日 2018-19 ウィンターシリーズ営業終了

令和元年7月13日 グリーンシーズン営業開始

令和元年11月21日 2019-20 ウィンターシーズンプレオープン開始

令和2年4月24日 2019-20 ウィンターシーズン終了

令和2年7月3日 グリーンシーズン、キャンプ場営業開始

令和2年12月16日 2020-21 ウィンターシーズン営業開始

令和3年2月26日 令和2年度夏油高原スキー場運営評価委員会

令和3年5月5日 2020-21 ウィンターシリーズ営業終了

令和3年7月2日 グリーンシーズン営業開始

令和3年11月27日 2021-22 ウィンターシーズンプレオープン開始

令和4年3月28日 令和3年度夏油高原スキー場運営評価委員会
